

2003 . 2

白石区民のページ page

白石区インターネットホームページ
<http://www.city.sapporo.jp/shiroishi/>
白石区民公式サイト「shiroishi.org」
<http://www.shiroishi.org/>

「ラッセル車みたいな人間ですよ」と、自らを例える人がいる。思い立ったらまず行動に移す。いつも胸を張り凛とした態度は、この人の生活信条でもある。

白石ばらの会会長の岡本さんは、その持ち前の行動力で会を引っ張る。この会は、昔遊びを通して世代間の交流活動を行っており、病院や学校、保育園などさまざまな施設に出向く。対象は幼児からお年寄りまで幅広い。昨年一年間の活動は百四十七回を数え、岡本さんは、そのすべてに参加している。平成十年に会が発足して以来、活動は通算で六百回近くに上る。今では、区内のイベントなどにも頻繁

に招かれるようになった。

「実は、幼いころ、引っ込み思案だったんですよ」と笑う。その後、入隊した海軍航空隊の長距離走で準優勝してから変わった。「人間やればできるものだ」と。終戦後は、金物店などで営業の仕事に携わった。しかし、勤めていた会社の倒産などもあり、すべてが順調にいったわけではない。定年後は趣味の世界に没頭した。そして、知人の誘いを受け、ある小学校で昔遊びを体験する。「心から楽しめたんです」。これが現在の活動を始めるきっかけとなった。六十八歳のときである。平成十一年には択捉島へのビザなし渡航に自費で参加。

歳をとればとるほど人には夢が必要ですね。それも楽しい夢が。

「白石ばらの会」会長

おかもと
岡本 信市さん (七三)

(平和通十二丁目南在住)

今月の

人



ロシアの子供たちと交流し、竹トンボなど道具一式を島に置いてきた。昨年は区内の商店街とも交流を持ち、行事に参加した。「歳をとればとるほど人には夢が必要ですね」と、これまでの人生を振り返りながら語る。今では、ばらの会が生きがいそのもののだと言い切る。「生かされているという感じです。共に活動する会員に感謝しています」とある幼稚園のことだ。活動が終わっての帰り際、小さな男の子が岡本さんの腕にしがみついた。目に涙をいっぱいにためてせがんでいる。「帰っちゃだめ」。岡本さんがたどり着いた人生最高の舞台が今も続いている。

■編集 白石区役所総務企画課広聴係
☎003-8612
札幌市白石区本郷通3丁目北1-1
☎861-2400 内線224
FAX860-5236